

第 57 回日本生態学会大会におけるシンポジウムの概要

①開催経緯

生物多様性総合評価に対する研究者の理解と、参加・関与の促進し、最終報告書案に対する意見を聴取するため、生態学会大会において、以下のようにシンポジウムを企画・開催した。大会参加者の関心は高く、会場の容量を超える 223 名がシンポジウムに参加した。

タイトル：生態学会第 57 回大会シンポジウム S02 日本の生物多様性の総合評価 ―生物多様性条約 COP10 に向けて―

開催日時：平成 22 年 3 月 16 日 9:00-12:00

開催場所：東京大学駒場キャンパス F 会場（7 号館 4 階）

企画者：中静透（東北大学）、永津雅人（財団法人自然環境研究センター）



写真 生態学会におけるシンポジウム

②開催概要

2010 年 10 月に、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催される。2010 年は国際生物多様性年でもあり、また生物多様性条約が掲げる 2010 年目標（2010 年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させるという目標）の達成状況を評価する年でもある。地球規模の生物多様性の状況については、2006 年 3 月に世界の生物多様性の状況を指標等を用いてまとめた「地球規模生物多様性概況第 2 版(Global Biodiversity Outlook 2: GB02)」が生物多様性条約事務局から発表されている。我が国では、2007 年 11 月に閣議決定された「第 3 次生物多様性国家戦略」において、2010 年目標の達成に貢献するため、我が国の生物多様性の現況や動向に関する総合評価を実施し、政策上の課題を明らかにするとともに、国民にわかりやすく伝えることにより理解を促進していくこととされている。また、2008 年 5 月制定の生物多様性基本法において、国は生物多様性の状況及びその恵みを総合的に評価するため、適切な指標の開発その他の必要な措置を講ずることとされている。これらを受け、昨年度から環境省により、専門家を主体とした「生物多様性総合評価」

が開始された。この我が国の生物多様性総合評価の進捗状況についての中間報告は、前回大会シンポジウムにて行っている。今年度は最終報告（2010年5月に公表予定）に向けた検討を進めており、そのとりまとめ内容について紹介するとともに、「2010年目標」、「ポスト2010年目標」など、日本のCOP10に向けた動きや世界の状況、研究者の貢献とネットワーク構築などについての講演を交え、日本の生物多様性の総合評価について全体討論を行う。

③プログラム

- ・ シンポジウムの趣旨説明（自然環境研究センター：永津雅人）
- ・ 講演1（S02-1）：日本の生物多様性総合評価報告書案について（東北大学：中静透）
- ・ 講演2（S02-2）：COP10、2010年目標、ポスト2010目標など生物多様性に関連する日本と世界の状況（環境省自然環境計画課：鳥居敏男）
- ・ 講演3（S02-3）：生物多様性評価の意義と科学的基盤の重要性（名古屋市立大学：香坂玲）
- ・ 講演4（S02-4）：生物多様性観測ネットワークと総合評価の今後の課題（九州大学：矢原徹一）
- ・ 全体討論